

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士（医学） 氏名 中山 智英

	主査	准教授	神山 俊哉
審査担当者	副査	教授	平野 聡
	副査	教授	山下 啓子
	副査	准教授	本間 明宏

学位論文題名

A study of the surgical treatment for intrahepatic cholangiocarcinoma
focusing on lymph node metastasis

(肝内胆管癌におけるリンパ節転移と手術治療に関する研究)

本研究では、肝内胆管癌根治切除症例における所属リンパ節転移の予後に与える影響や、郭清の意義について検討を行う目的で、大動脈周囲リンパ節転移陽性症例を迅速病理診断により除外し、所属リンパ節郭清を付加する根治切除を行った症例を前向きに集積した。その結果、遠隔転移のない肝内胆管癌において組織学的に大動脈周囲リンパ節転移が陰性であれば、所属リンパ節転移を来たしていても、その郭清を伴う根治切除を施行する事で一定の予後が期待できることを示すことができた。

審査会での質疑応答では、副査 山下教授よりリンパ節転移個数による予後の違いについて、次に、副査 本間准教授より化学療法を施行した3例および迅速診断が偽陰性であった症例の取り扱いについて、さらに、大動脈周囲リンパ節転移陽性症例を根治切除の適応から除外する理由について質問があった。続いて、副査 平野教授より末梢型肝内胆管癌と肝門に浸潤する肝内胆管癌との違いについて、また、大動脈周囲リンパ節の微小転移症例が本研究の結果に与えた影響について質問があった。最後に、主査 神山准教授より No.16a₂ 領域のリンパ節転移の可能性や同部位の検索の必要性について質問や、今回の研究結果を踏まえた今後の治療戦略について質問があった。

いずれの質問に対しても申請者はその主旨をよく理解し、自らの研究内容と文献的考察を交えて適切に回答した。

審査員一同はこれらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士(医学)の学位を授与されるのに十分な資格を有すると判定した。